

視察報告書

委員会名	市民福祉常任委員会
視察日時	平成30年11月7日(水) 13時30分～16時00分
視察先	静岡県 藤枝市
視察項目	健康・予防日本一 ふじえだプロジェクトについて
視察参加議員	笹栗純夫、三嶋栄幸、田原耕一、後藤宏爾、加茂正彦、長田秀樹

視察概要

藤枝市の概要 面積：194.06k m² 人口：145,652人 世帯数：59,098世帯

古くから東海道の要衝として発展してきた「まち」である。

“健康・予防 日本一のまち藤枝”づくりに向けた「ふじえだプロジェクト」について視察する。

ふじえだプロジェクトについて

<取組みの概要>

楽しい・お得などのキーワードを盛り込み、健康に関心のない健康無関心層(30～50代)の働き盛り世代もターゲットにする取組み、“健康・予防日本一”ふじえだプロジェクト(第一回健康寿命をのばそうアワード自治体部門を受賞)がスタートした。

<ふじえだプロジェクト3つの取組み>

歩いて健康「日本全国バーチャルの旅」・・・継続したウォーキングを支援

普段の歩数を万歩計などで計測し、1万歩(6.5km)を歩くごとに旅記録(市が用意した専用の用紙)の丸を塗りつぶしていく。参加者は全国を歩いているような気持ちで楽しみながらウォーキングができる。またコースは東海道コースの他、四国コース、九州コース、北海道コース、世界遺産コースなど多彩なコースが用意されている。

ふじえだ健康スポット20選・・・・・・・・・・地域の宝を健康づくりに活用

藤枝市の健康スポットを市内外から募集し、得票数やインパクトを基に20選を選定。選定されたスポットはウォーキングやフォトラリーなど市民の健康・予防行動の継続支援に活用されている。またスポットを「楽」「癒」「美」「食」「鍛」などに分類付けし、分かりやすくマップに落としこむことで、市内外へのPRにも使用するなど観光の面でも活用されている。

ふじえだ健康マイレージ・・・・・・・・・・日々の健康行動の実践と定着

日々の運動や食事など目標を達成できた場合や、健康診断の受診、禁煙、健康講座やスポーツ教室、地域行事に参加した場合にポイント(マイル)を付与。2週間以上チャレンジして一定ポイントを達成した人に協力店でサービスが受けられる「ふじのくに健康いきいきカード」(1年間有効)を発行する。

< 藤枝市の取り組みの特徴 >

藤枝市の取り組みの特徴として、Web版(アプリ等)を上手に活用しているという点と市の支出を可能な限り抑制しているという点がある。中でも静岡県のパイロット事業として共同で実施している“ふじえだ健康マイレージ”は、健康無関心層と呼ばれる30代～50代の方をターゲットとし、Webでも参加できるようにすることで、健康無関心層の取り込みに成功している。これにより健康ふじえだプロジェクトの基幹事業となっている。

また、ウォーキング等を支援するアプリ「あるくら?」を民間に開発委託し、健康マイレージと連携できるようにしている。アプリについては、開発費用はかかったものの、ランニングコスト(約5万円/月)はアプリ内の広告費用を活用するなど、市からの支出が少なくなるよう工夫されている。

「ふじのくに健康いきいきカード」の協力店については、市の別の施策で登録している店舗に依頼し、こちらも市からの支出なく協力を取り付けることに成功している。

そのかわり協力店舗にはのぼり・ポスターを無償提供している。

この事業は県事業でもあるため、藤枝市以外の市も事業展開しており、藤枝市でのカード取得者は藤枝市以外の県内他市でもサービスを受けられるメリットがある。(県内協力店舗1,027店、藤枝市内66店)また、すべてを制覇した方はマイレージマイスターとして、年度末に市よりプレゼントを贈るなど、参加者が継続したくなるような工夫もされている。

その他、大塚製薬やカゴメ、明治といった企業との連携も行っている。

< 課題・問題点 >

課題としては、健康行動を推進することはできているが、それがどのくらい健康度に繋がったのかというような検証がとれていない点が挙げられる。その解決策として、次年度は、医師会と連携して血液測定を行うなど、しっかりとしたデータをとることができるようにする予定である。

本市にとって活用すべき事項や課題

- ・市の支出を抑えた形でのアプリ導入やウェブによる健康づくり支援など糸島市においても活用できないか調査、検討する価値があると考ええる。
- ・糸島市でも「いとネット」登録店舗に協力を依頼することなどにより、似た取り組みが可能ではないか調査、検討する価値があると考ええる。
- ・市のマップを観光だけでなく、健康づくりにも活用する視点が必要ではないか。